

黒大豆栽培で初交流

東雲高・多紀小

農業の楽しさ知って

篠山東雲高校アグリプロダクト類型の3年生4人が6月から、多紀小学



黒大豆の苗を一緒に植える東雲高の生徒と多紀小の児童たち。丹波篠山市草ノ上で

2022年7月7日

丹波新聞

「苗を植える間隔が分かった。楽しかった」と話し、さんは「高校生は優しく教えてくれるのが上手だった。東雲高校に興味を持ったし、行きたいと思った」と笑顔だった。

児童から「なかよしくん」と親しまれていた東雲高の君（西紀中出身）は「小学生に分かりやすい言葉でコミュニケーションを取るようにした。フレンドリーで元気をもらえた。農業を楽しいと思ってもらえれば」とほほ笑んだ。

今月は除草や土寄せを行う予定。秋の収穫まで、定期的交流する。

校の3年生（20人）と黒大豆栽培を通じて交流している。高校の特色を生かした活動を支援する県教育委員会の事業「インスパイア・ハイスクール」の一環。2回目の交流がこのほどあり、多紀小の菜園で苗を定植した。

東雲高が、近くにある多紀小の児童に、高校の魅力や農業の楽しさを知ってほしいと計画。総合的な学習の時間で地域について学んでいる3年生と交流することになった。黒大豆を通じての交流は初めて。1回目は多紀小で種まきと畑の準備作業を行った。

この日は、計20本の苗を用意。「苗同士の間隔は40センチ」「子葉の下まで」などと、コツを指南しながら、スコップや移植機「なかよしくん」を使って植えた。作業前には、生徒たちが黒大豆の1年間の栽培暦を紹介した。苗の定植後は、生徒たちが、周囲に生える雑草の豆知識も紹介。児童たちは積極的に質問するなど興味を示していた。

多紀小の君は